

・ 教員養成の目標及び計画

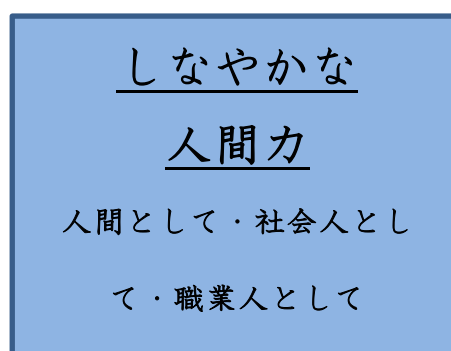
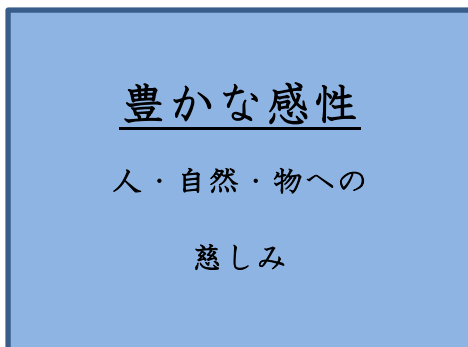
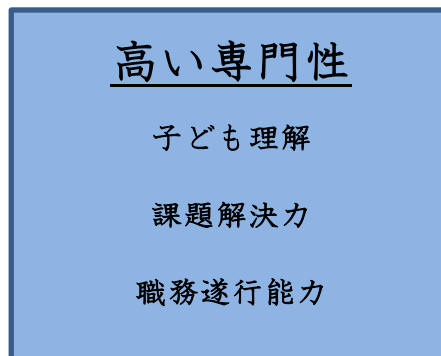
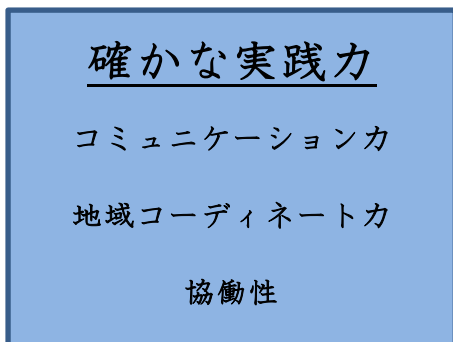
【教員養成の目標】

京都華頂大学は明治44年に創立された華頂女学院を起源とし、「法然上人の立教開宗の精神に基づき、生命の尊さを深く理解し、素直に感謝の出来る社会人を育成すること」を教育方針としている。

本学における教員養成においては、この教育方針に基づき、人とお互いを認め合い豊かに生きる社会を構築するために、教員を志す学生が子どもの教育を通して社会に貢献する意思を持ち、柔軟かつ的確にその変化に対応する力を身につけていくことを目指している。教育現場において、地域社会の一員であることを自覚し、子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、創造性を最大限開花させる確かな教育活動が展開できるよう、学生の資質及び実践力の向上を図る。

次のような教師像を掲げ、目指すべき姿を示している。

- 子ども・保護者・地域に信頼される教師
- 先を見通し学び続ける教師
- いのちを慈しみ感謝の念を持つ教師



【教職課程計画】

○1 回生の学び

京都華頂大学での学びについて理解し、職業人として、一人の生活者として、さらに未来を切り拓いていく人材として、必要な知識・能力・態度を身に付けるよう努力する。

☆知的基盤…総合科目・基本科目・発展科目はもちろん、教職課程の授業の履修、幅広い読書や仲間との学び合いを通して、社会の動きへの関心を高め、知的基盤を確立する。社会や家庭・家族のさまざまな問題と教育との関係性を学び、教育の営み、教職の役割について理解を深める。

☆社会性…課外活動（クラブ活動、ボランティア活動等）、大学内外での人との交流を通して、コミュニケーション能力や協調性、マナー等の社会性を身に付ける。

☆ゼミでの学び…課題発見・解決力、プレゼンテーション力の基礎をここで学ぶ。

○2 回生の学び

2・3回生は、「教科」「教職に関する科目」を多く履修する大切な時期。履修計画をしっかりと立てて心して臨む。自分が携わりたい教育分野（幼稚園又は小学校など）を選択する時期である。

なお、児童学専攻の場合、教育実習（幼稚園又は小学校）を含めた必要な教職科目を履修することにより、幼稚園教諭、小学校教諭両方の免許を取得することができる。

<履修計画>

- ・履修要項を見て、確実に履修登録をする。
- ・4回生時の教育実習先探しを始める。→志望校種の決定
- ・2回生の学びを履修カルテ・自己評価シート等でふりかえり、次年度の目標を立てる。

○3 回生の学び

「教科」「教職に関する科目」を多く履修する大切な時期。履修計画を的確に立てることが重要。自分が携わりたい教育分野について深く学ぶ時期。次年度の教育実習を履修するために必要な単位取得ができるか確認が必要である。

後期から始まる「教育実習事前事後指導」は、「教育実習」の概要の理解、教育実習時に必要な知識や技能を獲得するための大切な授業である。介護等体験（該当者）実習がある。

○4 回生の学び

履修カルテをもとに、大学生生活の総まとめを確認し、教育実習・教職実践演習を通して、確実な力をつけるよう意識付けをする。

教員採用試験対策は、教職教育機構や教員採用試験対策講座において、面接指導、模擬授業指導集団討論指導、小論文指導、エントリーシート等を中心に行う。